臨床作業療法
COT
Clin Occup Ther
Vol.13 No.2 2016

特集 あの手この手の就労支援

編集担当 朝倉 起己

“働く”に至る，
就労適齢期までのプロセス　灘 裕介 ●104

若年脳卒中患者の就労支援を通じて学んだこと
—仕事が定着しなかった女性症例を通して　吉嶺 綾乃，他 ●108

就労移行支援施設に通所し，
脳梗塞発症から３年後に障害者枠での
就労に至った症例　小圷 仁美 ●112

高次脳機能障害者の継続支援の重要性について
—復職後職場環境の変化によりトラブルを招き，
孤立化した事例　吉田 安祐子 ●117

発症から長期経過した高次脳機能障害患者に対する
外来作業療法支援の１例　平原 由梨子 ●121

「強み」を活かした取り組みから就労に
つながった脳性麻痺者の１例
—機織り教室の開催に至るまで　斉藤 崇宣 ●126

精神障害領域における就労支援の実際
—当院トライワークの事例から　朝倉 起己 ●129

烈闘作業療法
自己決定支援で可能性を引き出す
（田渕 香さん） ●96

連載

【新連載】
これから臨床実習にでる君へ
臨床実習に臨む学生の心得 山田 聡恵 ●134

【新連載】
レストラン OT 奮闘記―汗と涙の就労支援
障害者雇用が社風を変える ?!
―ある焼肉店の挑戦 仲地 宗幸 ●142

片麻痺の方への促通反復療法 OT 実際編
肩甲帯・肩の促通手技 大郷 和成 ●147

ＯＴケアマネジャーはこうした！
要介護 5 からの再スタート
―A さんの「やりたい」を支援する 丸子 佐和子，他 ●153

コラム

らんどまーく
実は私も酒が好き 青木 博文 ●94

掘り起こせ“やる気”OT スコップ隊　認知症の人編
家族からみた認知症の症状（その 4） 上城 憲司，他 ●137

女性 OT ひとりで悩まないで
「子どもとの時間」と
「スタッフとの時間」のバランス 宇田 薫，他 ●138

なんでもできる 100 均グッズ
玉落としゲーム 灘 裕介，他 ●140

私が出会った作業療法
作業療法とは，身体のリハビリ，
そして，心のリハビリ 佐野 智恵 ●157

OT として私が大切にしていること
「感謝」することの大切さ
―フリーの OT として現場で学んだこと 渡邊 雄介 ●161

アラカルト

作業療法周辺のニュース ●164
カメラマン川上哲也の見た世界 ●目次前
書評 ●168，169
次号予告 ●172
はじまりのことば…川口 淳一 ●巻頭頁
既刊案内 ●160
インフォメーション ●170

◉表紙写真：石原雅彦

◉烈闘作業療法
Passion of Occupational Therapy

自己決定支援で可能性を引き出す

全国でも数少ない，サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の立ち上げに参画したOTがいると聞き，田渕香さんを取材した。持ち前の好奇心の強さと，「人の役に立ちたい」という思いから，これまで法人内の新事業には積極的に関わってきたという。2014年に開設されたサ高住には，OTならではの入居者への細やかな心配りが，随所に生かされている。

お話を伺ううちに，「さりげない自己決定支援」や「患者への深い共感」など，その行動力を支える熱い思いがみえてきた。（編集室）

田渕 香さん
みきやまリハビリテーション病院
OT 16年目，北海道出身

得るものの多かった ボランティア活動

――田渕さんは，最初からOTを目指されていた

インタビューの様子がムービーでご覧になれます

特集

あの手この手の就労支援

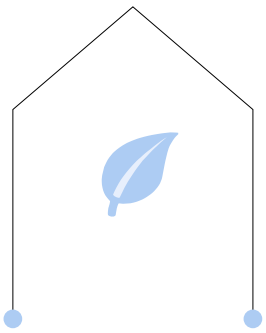
“働く”に至る，就労適齢期までのプロセス

Yusuke NADA
灘 裕介
（有）あーと・ねっと，作業療法士

内容を理解するためのキーワード　●特別支援学校　●ライフスキル　●福祉就労

就労支援のポイント

- ●生徒が高等学校または特別支援学校高等部を卒業までに検討しなければならないのは，まず居住，そして就労を含めた日中活動についてである。
- ●就労に向けて，早期からライフスキルや体力を培う支援を行うことが重要である。実際に，一貫した教育支援体制を組んでいる学校もある。
- ●発達領域の OT は，目の前の児童に対し長期的な見通しをもって作業療法実践を行うこと，また，学校などと連携し，支援を引き継いでいく必要がある。



はじめに

筆者は，発達領域全般への作業療法を，講師派遣や委託業務にて日々実践している。その形態はさまざまであり，個人セッションもあれば，保育所や幼稚園，学校などへの参観およびスーパービジョン，コンサルテーションの形態をとることもある。しかし，就労支援に関しては，直接関与する機会は少ないのが事実である。

早期発見・早期療育という考えをベースに，作業療法の対象として低年齢の方が手厚くされる傾向は致し方ないところがあると思われる。一方，先に述べた学校（特に特別支援学校）では，卒業時の就労を意識した教育実践がなされており，そこに OT が関与することを求められることも増えてきている。

本稿では，発達に障がいをもつ児童が，就労適齢期を迎える時期までにどのようなサービスを活用し，社会へ巣立つ準備を行うか，またどういった進路を選択できるかを紹介し，今後の OT の役

特集

あの手この手の就労支援

若年脳卒中患者の就労支援を通じて学んだこと
―仕事が定着しなかった女性症例を通して

Ayano YOSHIMINE　*Hikaru SHINZATO*
吉嶺 綾乃，新里 光
大浜第一病院，作業療法士

内容を理解するためのキーワード　高次脳機能障害　QOL　継続的な就労支援

就労支援のポイント

- 本人の求める働き方を理解する。
- 本人の能力を考慮し，仕事内容や目標設定などについて，利害関係を雇用側とマッチングする。
- 就労支援では，就職よりも仕事を継続することの方が難しいため，就労後の定期的な情報収集・サポートが必要である。

はじめに

中途障害者にとって，生活を再建していく過程での「仕事」は，生活の質（以下，QOL）を高めるうえで重要であるといえる。特に若年の脳損傷者においては，入院生活から在宅生活へ復帰し，日常生活活動（以下，ADL）が自立すると，「働きたい」と思うことは社会とのつながりを再構築していくうえで希望となり，新たな人生の目標となりうる。人が働くことはQOLに関わり，人それぞれの生活習慣や価値観に基づき，どのような働き方を求めるかにより就労の形態は変わる。そのため，障害者の就労支援に関わる際には，目標設定や具体的支援を戦略的・継続的に行うことが重要となる。

今回，報告する症例は，外来リハでの関わりで3回の雇用機会を得たものの，軽度の失語症や注意機能・遂行機能障害などを背景にさまざまな課題に直面し，仕事が定着しなかった。その3回の関わりを振り返り，仕事の捉え方など症例から学

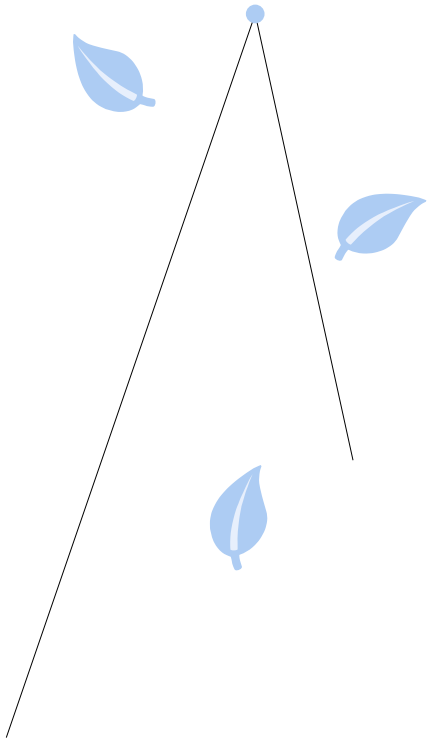
就労移行支援施設に通所し，脳梗塞発症から３年後に障害者枠での就労に至った症例

Hitomi KOAKUTSU
小坏 仁美
フロイデ工房しろさと，作業療法士

内容を理解するためのキーワード　高次脳機能障害　長期的支援　職場復帰

就労支援のポイント

- 当事者同士の語り合いの場は，精神面の安定，焦りの軽減につながる。
- 就職先で関わる人に情報提供を行い，働く環境を事前に整えておく。
- 退院後に就職のチャンスがくることも見据え，入院中の支援に終始せず，地域や当事者団体につないでいく。



はじめに

「フロイデ工房しろさと」（以下，当施設）は茨城県北部の城里町に位置し，障害者総合支援法における就労移行支援と就労継続支援B型を運営している。医療法人博仁会 志村大宮病院が母体となり，2016年度で開設8年目を迎えた。利用対象となるのは就職・復職を希望する65歳未満の高次脳機能障害者，知的障害者，発達障害者であり，1日平均20名の利用者が通所している。本稿では，脳梗塞発症から3年後に障害者枠での就労に至った症例について報告する。

症例紹介

Aさん，男性，50歳代。

診断名：右中大脳動脈領域脳梗塞。

障害：左片麻痺，注意障害，左半側空間無視，構成障害。

現病歴：X年6月，JCS（Japan Coma Scale）Ⅰ-2，左片麻痺を呈しB病院に救急搬送され，C病院に入院となる。MRI施行し，保存的治療を開

特集

あの手この手の就労支援

高次脳機能障害者の継続支援の重要性について―復職後職場環境の変化によりトラブルを招き，孤立化した事例

Ayuko YOSHIDA
吉田 安祐子
介護老人保健施設せんだんの丘 通所リハビリテーション，作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●高次脳機能障害 ●環境変化 ●継続支援

就労支援のポイント

- ●対象者の利用開始から現在までの変化をしっかり把握し，課題を調節する担当者がいるとよい。
- ●ジョブコーチの利用は，職場の人から障害に対する理解を得るのに役立つ。
- ●対象者自身の訴えだけではなく，周囲の人の様子などにも目を向けながら課題を把握する。

はじめに

「吉田さん，私は会社と戦うつもりです!! パワハラには負けません!! 私は間違っていません!!」

1カ月ぶりに会うAさんは，筆者の顔を見るや否や大声でまくし立てるように話し始めた。それまで私が知っていたAさんとは，まるで別人のようだった。それと同時に，定年退職を半年後に控えたこの時期に，“何があったの?? どうして我慢できなかったの…”という思いと，“やっぱりな…”という思いが頭の中を駆け巡った。せんだんの丘通所リハビリテーション（以下，当通所リハ）に従事し，これまで何人かの利用者を復職支援してきたが，高次脳機能障害を合併するAさんに対しての支援に不十分さをどこかで感じていたためであった。それは復職に至るまでの間，当通所リハをはじめ担当ケアマネジャーや各サービスのセラピストが何度か変わり，結果的に，現在に至るま

発症から長期経過した高次脳機能障害患者に対する外来作業療法支援の１例

Yuriko HIRAHARA
平原 由梨子
甲州リハビリテーション病院 リハビリテーション部 外来，作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●外来作業療法 ●IADL ●長期的支援

就労支援のポイント

- ●生活期を支える外来リハの役割やニーズは高まっているが，提供する医療機関は減少しており，継続的にリハを受けられない状況が生じている。
- ●発症から長年経過している高次脳機能障害患者に対し，外来作業療法において評価・訓練および環境調整を行い，IADL 拡大と新規就労に至った。
- ●長期的支援を必要とする高次脳機能障害患者の障害特性を捉え，医療機関は早期から継続して就労も視野に入れた支援をする必要がある。外来リハは多職種協働で障害特性に応じた支援が行える機能を活かし，生活期の IADL も含めた介入が可能である。

はじめに

病院機能分化や入院期間短縮化により継続的な在宅医療支援の重要性が高まる一方で，外来リハを行う医療機関は減少している。生活期の若年障害者は就労が課題となるが，継続的なリハ提供は容易ではなく，長期的支援が必要な高次脳機能障害患者にとって大きな問題である。医療機関のリハの役割は，障害の診断・評価・治療を行い，また地域の社会資源利用の橋渡しをすることである。外来作業療法では，患者の自己実現を目標に IADL に着目し，安定した日常生活を可能にすることで，生活能力の範囲を拡大させ地域活動参加や就労へつなぐ支援を行う。

「強み」を活かした取り組みから就労につながった脳性麻痺者の1例
―機織り教室の開催に至るまで

Takanobu SAITO
斉藤 崇宣
札幌西円山病院 訪問リハビリテーションさくら，作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●訪問リハビリテーション ●脳性麻痺 ●多職種連携

就労支援のポイント
- ご本人の「強み」を活かした就労・社会参加を意識する。
- 疾患，障害特性に関わらず，ICF の視点を重視する。
- 地域とのつながりを意識した多職種連携を実施する。

はじめに

今回，50 歳代の脳性麻痺者に対して，「ご本人なりの就労」という形へつながった支援を経験した。本稿の執筆という機会をいただき，これまでの訪問作業療法での関わりを振り返ると，ご本人の「強み」を意識して関わったことが良い結果につながったと筆者は感じている。その訪問作業療法での支援を，以下に述べる。

事例紹介

アテトーゼ型脳性麻痺である 50 歳代女性。養護学校高等部卒業後，数年間は身体障害者更生施設などで入所生活を送っていたが，26 歳時よりホームヘルパーを利用して，障害者用公営住宅での独居生活を開始された。入所生活中に機織りを習得され，小規模作業所にて手芸品の制作・販売を行っていた。

35 歳頃より，20 年間継続していた訪問看護・リハが終了し，その後約 1 年の間に，昼夜逆転など生活リズムの崩れ，筋緊張亢進による全身の可動性低下や疼痛の悪化がみられた。また，居室内の

特集

あの手この手の就労支援

精神障害領域における就労支援の実際
―当院トライワークの事例から

Tatsumi ASAKURA
朝倉 起己
共和病院 デイケア課，作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●心理教育 ●ピアサポート ●社会資源の活用

就労支援のポイント

- ●対象者と共に現場を実際に見学し，就労経験者の体験談を聞く。
- ●アフターフォローを行うことが，長期的な就労につながる。
- ●対象者のニーズを満たすには，多職種・多機関と連携するマネジメント力が求められる。

はじめに

障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）の改正によって，2018 年度より精神障害者が法定雇用率の算定基礎に加えられることになった。また，精神に障害をもち「働きたい」と希望する方は多く，就職件数や新規求職申込件数も年々伸びてきている（図 1）。

当院（共和病院）デイケアにおいても就労志望の当事者が少なからず利用しており，そのニーズに応えるために就労支援プログラムおよび個別支援を行っている。いくつかの事例を紹介するとともに，そこに共通する支援方法とうまくいった点，支援のポイント，課題について整理する。なお，対象事例には本報告についての同意を得ており，筆者の所属機関の倫理委員会の承認を得ている。

就労プログラムの紹介

当院では，2008 年 12 月より「働く」をテーマにしたプログラム，トライワーク（2015 年 1 月よりプチワークに名称変更）を開始した。プログラム目的は就労志望の当事者のニーズに応えること

これから臨床実習にでる君へ

臨床実習に臨む学生の心得

山田 聡恵（志村大宮病院 茨城北西総合リハビリテーションセンター）

「明日から実習だ…。どうしよう，大丈夫かな」と筆者も学生時代，臨床実習前にとても緊張し，不安で眠れなかった記憶があります。今，このコラムを読んでいる学生の皆さんも，実習に向けて期待もあるけれど，不安の方が大きいという人も多いのではないでしょうか。そんな皆さんに，学生時代に実習を経験してきた先輩という立場，その後実際に学生指導を行う機会もいただいた立場として，その中で感じたことなどをお伝えします。これから臨床実習に臨む学生の皆さんにとって少しでも役立つように，臨床実習に向けてのメッセージとして，「臨床実習に臨む学生の心得」という形でいくつか挙げていきたいと思います。

心得① 体調の自己管理ができる

体調を自己管理し，実習に臨めることがまず一番重要と考えています。実習に行く施設によっては，全く知らない初めての土地であったり，今までしたことのない1人暮らしをしながら実習に臨むなど，生活の環境が変わる場合が多いと思います。そのため，まれに体調を崩すこともあると思います。しかし，そんな中でもしっかりと食事をとる，睡眠を確保するなど，体調管理を心がけることが大切です。寝不足だからといって実習中に居眠りをしてしまったり，体調を崩して実習に行けなくなっては大変です。

ただ，どうしても体調が優れないときは，我慢しすぎず指導者に相談することも大切です。もし，自分がインフルエンザなどの感染症で患者にうつしてしまったら大変です。病院という現場で働くこの仕事は，体力も使う仕事ですから身体が資本です。実習の時から，体調管理には十分に気を付けましょう。

心得② 身だしなみや姿勢，態度に気を付ける

これは，意外と見られているところです。ユニフォームが汚れていたり，靴がボロボロだったり，ズボンの裾が長すぎたりしていませんか？ 男性の学生では寝癖が付いたままだったり，女性の学生だと，前髪が長すぎて顔にかかっているのを見かけることがあります。一番最初に目が行くのは見ためだと思います。身だしなみに気を付けるだけで印象は大分異なってくると思いますので，まずは自分の姿を鏡の前で確認してみましょう。

また，実習地で過ごす際の態度にも気を付けてみましょう。実習地と学校は異なります。歩くときにポケットに手を入れて歩いたり，椅子に座るときに足を組んだりしていませんか？ 学生でも，実習中は病院や施設のスタッフの一員です。施設のスタッフとして恥ずかしくないように過ごしてもらいたいと思っています。

心得③ あいさつが大きな声でできる

「おはようございます」「こんにちは」「お疲れさまです」など，あいさつを大きな声でしましょう。もし，自分が患者だとして，元気がなさそうに小さな声であいさつする学生と，元気よくはきはきとあいさつする学生だと，どちらがいいですか？ もちろん，後者だと思います。「でも私，人見知り

レストランOT奮闘記
―汗と涙の就労支援

障害者雇用が社風を変える?!
―ある焼肉店の挑戦

仲地 宗幸（㈱NSP キングコング）

「焼肉パラダイス キングコング」とは

「♪大きな山をひとまたぎ，キングコングがやって来る，恐くなんかないんだよ，キングコングは友だちさ♪」*という歌をご存知だろうか。1度聴いたら耳から離れない心地良いメロディーと優しい歌詞。この歌の影響を受けてかどうかは分からないが，私は昔から“キングコングは見た目は怖いけど，みんなに優しい怪獣”というイメージをもっている。そのギャップが，長年ファンを魅了している所以かもしれない。その「キングコング」が，私の勤める会社が経営する店の名前だ。そして私は，その会社の専務取締役であるとともに，サービス管理責任者という福祉サービスの管理を行う役割も担っている。

「焼肉パラダイス キングコング」は沖縄県の中央に位置する，沖縄県第2の都市である沖縄市にある焼肉食べ放題の店で，20年続く老舗である。テレビCMもしているので，県内中部地区に住んでいる人なら大体名前くらいは聞いたことがあると思う。私がそこに勤めていると言うと，「あーーキングコングね，小さい時はよく行きました」「子どもが小さい時はよく行ったさーー」と皆声をそろえて言う。その評判の通り，キングコングは家族連れのお客様に楽しんでいただけるように，常時，焼肉やお寿司など70種類の料理と，ドリンクバーやデザートを用意している。価格は大人1人 1,150円（2016年3月現在）とリーズナブルで，楽しい家族団らんの時間を提供している。

飲食業と福祉は，混ざり合うことができるのか?!

さて，私はサービス管理責任者という福祉サービスの管理者をしていると書いたが，その意味について触れておきたい。キングコングは2011年の1月から，障害者総合支援法に基づく就労継続支援A型事業として福祉事業所の登録をして，障害者雇用を始めたのだ。水と油程の違いがある飲食業と福祉は混ざり合うことができるのか，どこで混ざれない歪みがでてくるのか，その矛盾や葛藤にのたうち回る5年間であった。

どこもしていない取り組みは，どこもしたくない取り組みということでもある。つまり，わざわざ儲かりもせず，名声も得られず，スタッフの負担になることはどこもやるはずがない。バカな会社だと思われるかもしれないが，このどこも行っていない地を這うような実践は文字にしておく価値があると感じ，本コラムにて執筆することにした。だから，これは障害者雇用のテキストではな

*「キングコング」作詞・作曲：小林亜星，歌手：藤田淑子

片麻痺の方への促通反復療法 OT実際編

肩甲帯・肩の促通手技

大郷 和成（NPO 法人 laule'a）

はじめに

前回は，促通反復療法の理論を中心に紹介した。『脳卒中治療ガイドライン 2015』[1]では，上肢機能障害に対するリハの項目で，「麻痺が軽度から中等度の患者に対して促通反復療法などを行うことが勧められる（グレード B）」とされている。今後，脳卒中片麻痺治療に携わる療法士にとって，促通反復療法は必須の技術になっていくだろう。

さて，今回より実践編として，上肢から手指までの基本手技を 5 回に分けて紹介していく。促通反復療法にふれたことがない学生や若い療法士の入門編となるよう解説しているので，明日からの臨床で取り入れていただけると幸いである。なお，手技の詳細については『片麻痺回復のための運動療法―川平法と神経路強化的促通療法の理論』[2]を一読いただきたい。

促通反復療法の原則

促通反復療法は，限られた時間内に訓練の質と量を確保した運動療法である。運動の頻度を高め，治療の質を向上させるために押さえておくべき原則は以下である。

1．目標の神経路の興奮水準を調整するため，姿勢反射や伸張反射，皮膚筋反射を用いる

治療者による声かけ（聴覚刺激）や患者による注視（視覚刺激）など，随意運動実現に向けてさまざまな刺激を用いる。

2．促通は随意性の高い近位部の運動から始め，次第に遠位部へと拡大する

随意性の残る部分から治療を開始し，共同運動パターンの部分的分離を促す。治療者による他動運動にならないように注意する。

3．歩行や日常生活動作に必要な筋の組み合わせの再獲得を優先する

患者が麻痺手を使用して実現したいことを聴取し，それを実現するために必要な機能回復につながる促通パターンを選択する。

4．運動の回数は 1 つのパターンにつき 100 回（50 回×2 回）を基本とする

50 回でも効果があるとの報告もあるが，筆者は 100 回を基本としている。弱化が目立つ運動については 300 回程度繰り返すこともある。なお，別の運動に移るときは，集中力の持続と神経の機能的結合強化（コンソリデーション）を妨げないよう，30～60 秒の休憩を設ける。

5．痙縮が高まったら中断する

随意運動に伴い痙縮が高まったら一度運動を中断して，痙縮を減少させる操作を行う。痙縮が高まった状態で運動を継続してはならない。

8 OTケアマネジャーはこうした！

要介護5からの再スタート
―Aさんの「やりたい」を支援する

丸子 佐和子*
三浦 晃**
大塚 英樹*

*指定居宅介護支援事業所 せんだんの丘，介護支援専門員，作業療法士
**介護老人保健施設 せんだんの丘，支援相談員，作業療法士

はじめに

今回，ご紹介する事例のAさんは，筆者がケアマネジャー（以下，ケアマネ）になって間もなく地域包括支援センターからの引継ぎで担当になり，現在も担当を継続しているパーキンソン病の方です。当初は，パーキンソン病による運動障害があるものの，日常生活は自立しており，要支援1の認定でした。非常に趣味の多い方で，パーキンソン病を発症した後にやめてしまった趣味もありましたが，新しく始めた趣味も多く，とても活動的に生活していました。

そんなAさんですが，のちにパーキンソン症状の悪化のためADLに全般的な介助が必要となり，要介護5の認定を受けました。本人も，家族も支援者も要介護5という認定に驚きつつも，「これ以上は悪くなることはない，あとは良くなるだけ！」という気持ちに切り替えて現在に至っています。現在は，日常生活で介助を必要とする部分もありますが，徐々に改善し，パソコンで調べものをしたり，ホームベーカリーでパンを焼いたりと，自宅内ではやりたいことがある程度できる生活になりました。

ケアマネとして日々の身体・精神状態，生活状況の変化に寄り添いながら支援させてもらい，Aさんからいろいろと学ばせていただいています。再度，やりたいことの実現へ向けて取り組んでいるAさんについてご紹介します。

Aさんの紹介と生活の変化

Aさん，60歳代，男性，X年にパーキンソン病の診断を受け，それを機に事務職の仕事を退職。妻と2人暮らしで，3人の娘たちはそれぞれ自立し，遠方に住んでいます。X+3年から介護保険の利用が始まり，週2回，半日の介護予防通所介護に通いながら身体状況の維持に取り組み，そのほかにも英会話教室，パークゴルフ，サッカー観戦（地元サッカーチームのサポーター），歌声喫茶，

私が出会った作業療法

作業療法とは，身体のリハビリ，そして，心のリハビリ

執筆者：佐野 智恵

紹介者：三瀬 和彦
（甲府城南病院 リハビリテーション部）

突然の入院

脳内出血を発症した時は，娘を駅に送ろうとして，車の運転中でした。一緒に乗っていた息子が救急要請し，病院に搬送されました。突然のひどい頭部痛があり，右脳内出血のため，左半身麻痺，左手足の感覚麻痺が重く，左身体失認，左同名半盲という状態でした。初めに搬送された病院には1カ月入院し，その後リハビリを強化するため，回復期病棟のある甲府城南病院へ転院することになりました。発症してちょうど1カ月後の6月18日のことでした。

転院翌日からリハビリが始まりました。数日後には担当の先生が決まり，1日に3時間，150日間にわたる，私のこの病院でのリハビリ生活が始まりました。前の病院でのリハビリでは，4点杖や平行棒につかまり，介助されなんとか歩いてはいたものの，麻痺足の膝折れはひどく，私の生まれつきの病気である左足の内反足の影響のためと思われますが，左骨盤周りの筋力がなく，左のお尻は後ろにひけて，とてもではありませんが，普通に歩けているとはいいがたい状態でした。退院後，娘に聞くとまるで「ゾンビ」のようだったといいます。今もまだまだですが，その頃より姿勢よく歩けるようになったのは，まさにリハビリの先生のおかげです。

作業療法で自信をつける

来る日も来る日もリハビリをし，7月に入り，外出や外泊ができるまでになりました。しかし，外泊をしたところ，久しぶりに家で家族と過ごし，私は，なんともいえない気持ちになりました。退院後の生活をイメージすると，実際に自分は何もできない気がしたのです。母として，妻として，家族に何かをし

OTとして私が大切にしていること

「感謝」することの大切さ
―フリーのOTとして現場で学んだこと

一般社団法人 Next Door
渡邊 雄介

このコラムのお話をいただいた時，初めはお断りしようと思いました。私は，OTになって13年目になったばかり。皆様にお話するような人生を歩んでいるわけではないと思っている，そんな発達領域のOTなので。

しかし，そこは「頼まれごとは試されごと」。人生の目標にも通じるところなので，お受けすることにしました。現在は，起業しフリーのOTとなり，児童発達支援事業，放課後等デイサービス事業，相談支援事業を運営しております。フリーで活動する中で「感謝」することの大切さを感じ，実践しています。

今回は，私が日々実践している「感謝」についてお伝えします。

OT 発達領域のOTとの出会い

私は，茨城県立医療大学でOTになるべく学びました。そこでの運命的な出会いが，今の自分の原点だと思っております。

当時，大学には鷲田孝保先生，長谷龍太郎先生，岸本光夫先生という，発達領域のOTなら知らないはずのない著名な先生方がいらっしゃいました。その先生方のもと，講義を受けたり，実習をさせていただいたりしていく中で，発達障がいの子どもたち，重度心身障害の子どもたちと触れ合い，どんどんその魅力に惹かれていきました。

ゼミもなんとか岸本先生の研究室に滑り込み，学ばせていただきました。その中で，どんどん岸本光夫という男に惹かれていき，いつかこの人に追いつきたい，いつかこの人と仕事の話ができるOTになって一緒に子どもたちと関わりたい，そんな想いをもって大学時代を過ごしました。しかし，20歳そこそこの学生であった私は，先生にそのことがばれるのが嫌で，どこか先生を小馬鹿にして，面白おかしくいじることで，その気持ちがばれないようにしていました。